今年最初の集会の話より「ならぬものはならぬ」

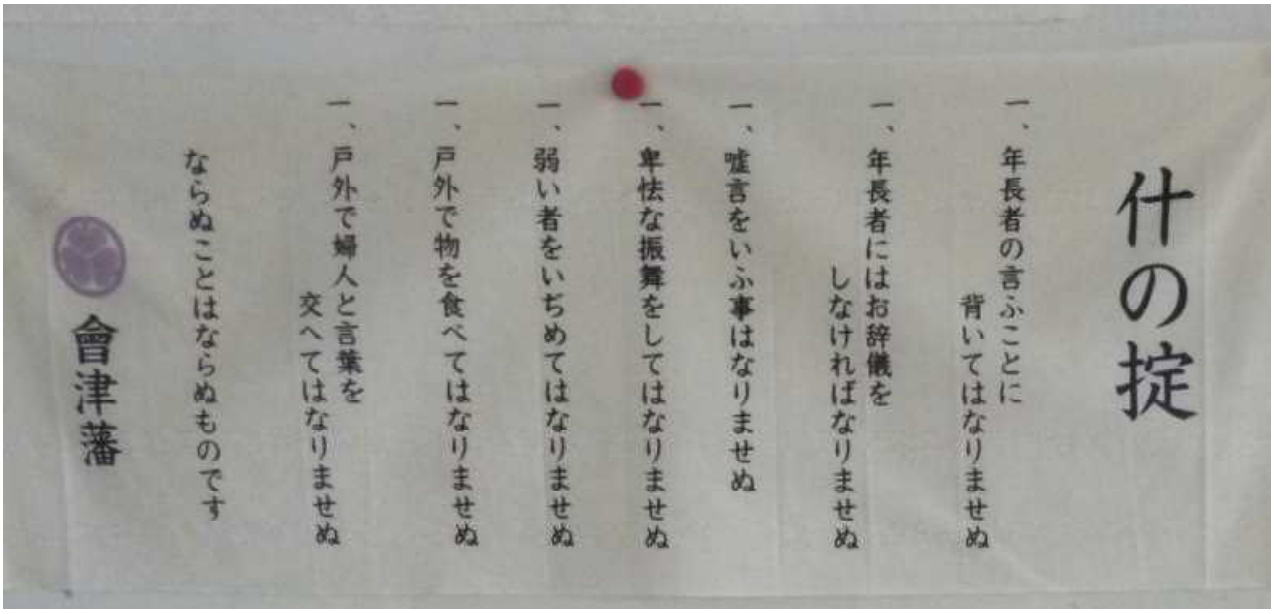
今年最初の１月の集会で、子供たちに校長からこんな話をしました。

修学旅行で会津若松に行った時、泊まったホテルの露天風呂に、大きな板の看板に書かれた「あいづっこ宣言」というものがありました。

これは、会津若松市が、こういう子供たちを育てようと作っているものですが、基になっているのは、江戸時代に作られた会津藩の「什の掟」です。校長室にも飾ってあるので、はずして持ってきました。

あいづっこ宣言

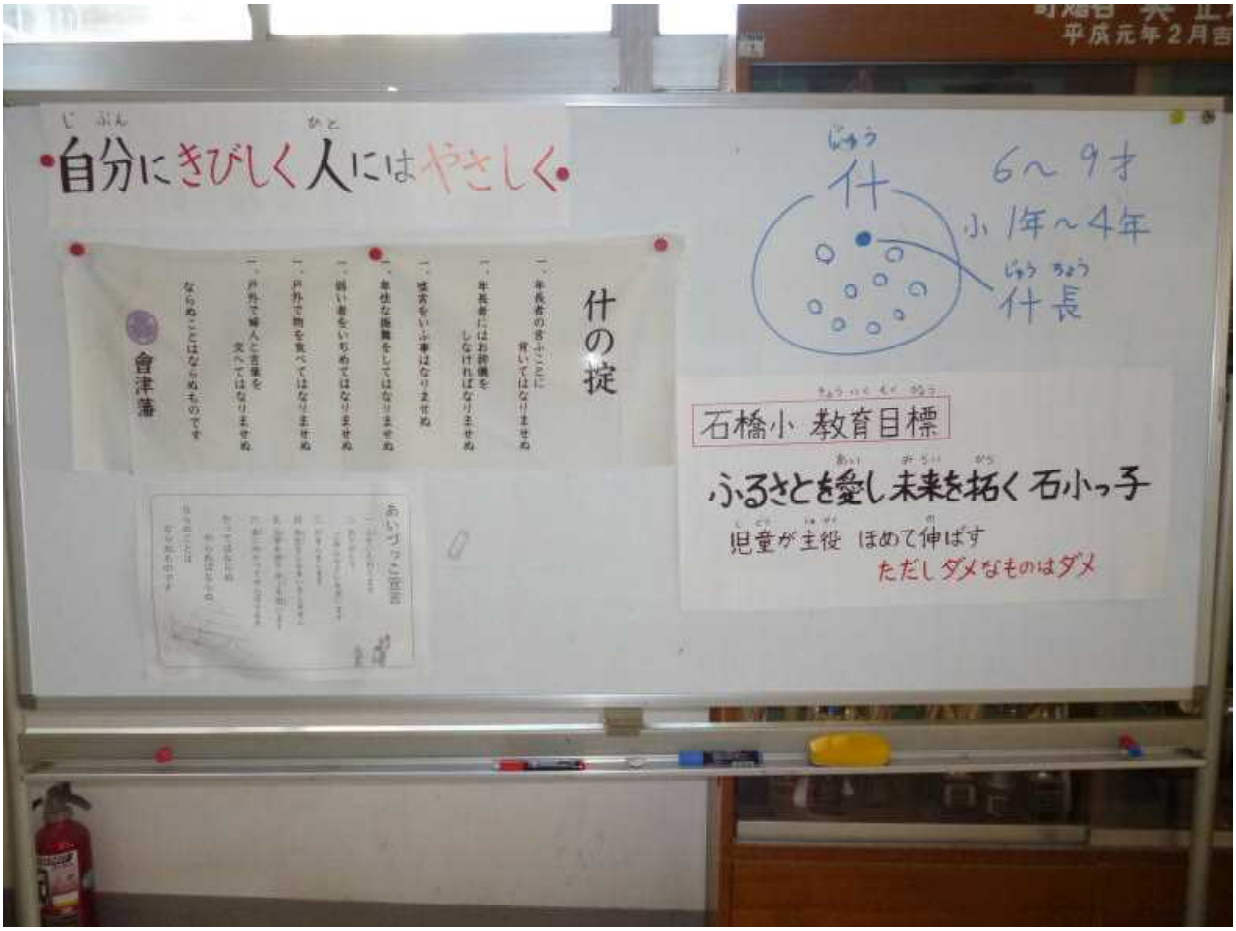
一　人をいたわります
二　ありがとう こめんなさい を言います
三　がまんをします
四　卑怯なふるまいをしません
五　会津を誇り 年上を敬います
六　夢に向かってがんばります
やってはならぬ
やらねばならぬ
ならぬことはならぬものです



これは、今から１５０年以上前、江戸時代に作られたものなので、難しい言葉が使われていますが、ここに書いてあるのは、「什の掟」（じゅうのおきて）と読みます。「掟」というのは、「みんなで作った決まり」のことです。この「什」というのは、決まりが１０あるという意味ではありません。昔、会津の武士を目指した子供たちは、６歳～９歳になると、町ごとに１０人くらいでグループを作っていました。今で言えば、１年生から４年生までの１０人の縦割り班です。このグループのことを「什」と言っていました。だから、「什の掟」というのは、その「グループの決まり」という意味になります。この「什の掟」のすごいのは、これは、大人が作ったものではなく、６歳～９歳までの子供たちが自分たちで作ったということです。この「什」

というグループは、毎日、順番で誰かの家に集まり、「什長」というリーダーが（今の４年生がリーダーですね）、この「什の掟」の話をして、最後に「誰かそむいたものはおらぬか？」と言って、反省会をしていました。では、１０歳以上、今の５年生と６年生は、どうしたのでしょう？　当時は、１０歳になると、武士の子供たちの学校に入ることになっていました。この「什の掟」は、学校に入るまでに、やってはならないことを身に付けるために自分たちで作ったのです。１０歳以上の子は、もはや、このようなことはできて当たり前、注意されることではない、というものだったわけです。「あいづっこ宣言」には、江戸時代からの伝統が受け継がれているのですね。

石橋小の教育目標は、このようなものです。

「ふるさとを愛し　未来を拓く　石小っ子」
児童が主役　ほめて伸ばす　ただしダメなものはダメ

この「ダメなものはダメ」というのは、「ならぬことはならぬ」と同じですね。何かしたくなってしまったとき、自分勝手な気持ちが出てしまったとき、今日のお話を思い出して、「ダメなものはダメ」「ならぬことはならぬ」と心の中でとなえてください。